

# 第1回富士吉田市立小中学校適正規模・適正配置検討委員会

## 会議録

- 1 日 時 令和6年12月24日（火）15時00分～16時30分
- 2 場 所 富士吉田市役所東庁舎2階206会議室
- 3 出席委員 16名（委員名簿順）  
廣田健委員長、品田笑子委員、渡邊卓史委員、宮下公雄委員、  
浅沼鎮雄委員、高山文委員、井上貴文委員、舟久保秀美委員、  
山田雅基委員、勝俣彰仁委員、三浦雅彦委員、伊藤秀一委員、  
三井康嗣委員、親田悠平委員、清水慶子委員、加々美せつ子委員
- 4 市出席者 堀内市長
- 5 出席職員 渡邊教育委員会教育長、勝俣総務部次長、真田企画部参事、  
宮下教育委員会次長、井上教育研修所所長、勝俣教育研修所課  
長補佐、柏木学校教育課課長、渡邊学校教育課課長補佐、渡邊  
学校教育課課長補佐、清水学校教育課課長補佐、羽田学校教育  
課職員
- 6 内 容 (1) 開会  
(2) 市長あいさつ  
(3) 委嘱・委員自己紹介  
(4) 委員長及び副委員長の選任  
(5) 諮問  
(6) 【議事】
  - ① 基本方針を策定する目的、背景並びにスケジュール
  - ② 学校を取り巻く現状と課題
    - ア 児童生徒数・学級数の推移と将来推計
    - イ 学校施設・運営面での教育課題
      - ・特別支援教育の状況
      - ・不登校児童生徒の状況
- (7) 閉会

- 7 配布資料
- 資料1：適正規模・適正配置検討委員会委員名簿
  - 資料2：席次表
  - 資料3：適正規模・適正配置基本方針策定のながれ
  - 資料4：検討委員会のスケジュール
  - 資料5：学校を取り巻く現状と課題
  - 資料6：適正規模・適正配置検討委員会設置要綱

## 会議録

### ○事務局

第1回富士吉田市立小中学校適正規模・適正配置検討委員会」を始めさせていただきます。はじめに、堀内茂市長からごあいさつを申し上げます。よろしくお願いいたします。

### ○堀内市長

みなさん、こんにちは、本日はお忙しい中、第1回検討委員会にご出席いただき誠にありがとうございます。皆様におかれましては、富士吉田市適正規模・適正配置検討委員会の委員を引き受けて頂き、ありがとうございます。

本市の小中学校におきましては、皆様、ご承知のとおり、昭和51年に富士吉田市立下吉田東小学校、昭和53年に富士吉田市立西小学校、昭和57年に富士見台中学校がそれぞれ新たに設立され、現在は小学校7校、中学校4校の11校体制となりました。11校は今の人口規模からすると多いと感じております。

昭和55年には富士吉田市の児童生徒数が小中合わせて9,150人でした。児童生徒数のピークだった当時、児童生徒によりよい教育環境を確保すべく、分散させるために設立されました。

しかしながら、全国でも同様ですが、本市の児童生徒数は減少の一途をたどり、今年度の児童生徒数は3,142人で、ピーク時から比べると、3分の1に減少している現状です。

この現象が更に進むことで、学校間における不均衡が起きており、これらが拡大してしまうことは子どもたちの学習面の発達、また競争社会でのあらゆることに対応できる能力などが劣ってしまうのではないかと、学習面での発達ばかりではなく、集団生活における能力が落ちてしまうのではないかと心配しています。

加えまして、学校施設も老朽化しており、施設の老朽化対策としましては、小学校の体育館、小中学校のトイレなどは既に改修を進めてまいりました。更に現在、明見中学校は長寿命化改修を行っておりますが、今後は改めて将来を見越した計画を作成する必要に迫られています。

後程、詳細をご説明させていただきますが、皆様におかれましては、本市の現状と課題をご理解いただく中で、子どもたちにとってよりよい教育環境を確保するために、早急に小中学校の適正規模・適正配置に関する基本的な考え方、基本方針を整理していただきたいと思っております。

本日は、市内小中学校の統廃合を含めた学校再編の策定に向けた議論のスタートになります。皆様にはそれぞれの立場、それぞれの視点から忌憚のないご意見やご提案を賜りますようお願い申し上げます。

○事務局

続きまして、富士吉田市立小中学校適正規模・適正配置検討委員会設置要綱に基づき、委員の委嘱状の交付を行います。

<委嘱状交付>

○事務局

それでは、「委員及び出席者紹介」を行います。

まず委員の皆様から自己紹介をお願いしたいと思います。

恐れ入りますが、廣田委員からお願いしまして、次は左隣の方の順でお願いいたします。

○廣田委員

都留文科大学学校教育学科で教育行政を行っています。地域と学校について学ばせていただいていますので、こちらで力を発揮したいと思っております。

○品田委員

都留文科大学の非常勤講師です。富士吉田市には10年以上関わらせていただいていますので、このような経験を踏まえてお役に立ちたいと思っております。

○渡邊委員

下吉田第一小学校、下吉田中学校の卒業生です。

○宮下委員

明見小学校の学校運営協議会委員をしています。

○浅沼委員

吉田中学校の学校運営協議会委員を務めています。

○高山委員

富士見台中学校の学校運営協議会委員を務めています。

○三浦委員

校長会代表、下吉田中学校です。

○伊藤委員

校長会幹事長、下吉田第二小学校です。

- 三井委員  
市教育会事務局長、明見小学校です。
- 親田委員  
市教育会事務局次長、富士見台中学校です。
- 勝俣委員  
明見小PTA会長です。
- 山田委員  
吉田西小PTA会長、富士吉田市PTA連合会副会長、吉田西小コミュニティスクールの担当しています。
- 舟久保委員  
富士見台中学校PTA会長です。
- 加々美委員  
富士吉田市教育委員会部長です。
- 清水委員  
富士吉田教育委員会代表です。
- 井上委員  
富士吉田市PTA連合会の会長を務めています。
- 事務局  
事務局の紹介です。  
総務部次長 勝俣です。  
企画課 真田です。  
教育委員会次長 宮下です。  
教育研修所 所長井上です。  
教育研修所 勝俣です。  
学校教育課 羽田です。  
渡邊です。  
清水です。  
渡邊です。  
柏木です。

また、本日は、本市が委員会運営等の支援を委託しております、株式会社ファインコラボレート研究所も同席しておりますのでご承知おきください。

なお、本委員会の会議につきましては、委員全員のご出席をいただいております、委員会設置要綱第5条第4項に規定されております定足数に達しておりますことをご報告させていただきます。

ここで、配布資料の確認をさせていただきます。

**【配付資料】**

資料1 富士吉田市立小中学校適正規模・適正配置検討委員会委員名簿

資料2 富士吉田市立適正規模・適正配置検討委員会席次表

資料3 適正規模・適正配置基本方針策定の流れ

資料4 検討委員会のスケジュール（案）

資料5 学校を取り巻く現状と課題

資料6 富士吉田市立適正規模・適正配置検討委員会設置要綱

皆様には事前にお送りさせていただいておりますが、不備等ございませんでしょうか。

それでは、次第4「委員長及び副委員長の選出」に移らせていただきます。

委員長と副委員長の選出につきましては、委員会設置要綱第4条の規定により、委員の皆さまの互選により定めることとされております。

委員長、副委員長の選出につきまして、ご意見はございますか。

○宮下委員

立候補もないようですので、事務局案があればお願いします。

○事務局

ただ今、宮下委員から事務局案の提示をというご発言がございました。よろしいでしょうか。

○委員

「異議なし」

○事務局

それでは、事務局から提案願います。

事務局案でございますが、委員長につきましては、学識経験者であり、学校再編をはじめとする学校教育に幅広く精通されている廣田健委員に、副委員長につきましては、今年度の学校経営研究会会長（校長会の会長）であり、今の学校現場を十分ご承知しております三浦雅彦委員にお願いしたいと考えております。

ただ今、事務局より、委員長に廣田委員、副委員長に三浦委員を推薦する提案がありました。いかがでしょうか。

○委員

「異議なし」

○事務局

それでは、委員長は廣田委員、副委員長は三浦委員にお願いいたします。

委員長、副委員長 から、それぞれ お一言ごあいさつをいただきたいと存じます。よろしくお願いいたします。

○委員長

適正規模を考えるにあたりどうすれば子ども達が一番よく育っていくのか考えていきたいと思っております。

○副委員長

廣田委員長、皆様と共に職務を遂行していきたいと思っております。

○事務局

ありがとうございます。

ここで事務局から皆様にご了承いただきたい事がございます。

これから先、第2回以降の検討委員会も含めまして、会議の撮影および録音等を事務局にて行わせていただくことをご了承いただければと思います。

よろしくお願いいたします。

それでは、教育長より検討委員会委員長に「富士吉田市立小中学校適正規模・適正配置について」諮問いたします。

渡邊教育長と廣田委員長は、前にお願ひします。

○渡邊教育長

< 諮 問 >

富士吉田市立小中学校適正規模・適正配置の基本的な考え方となる基本方針の策定を諮問します。

○事務局

ありがとうございます。

渡邊教育長におかれましては、他の公務のためここで退席させていただきます。

廣田委員長、席の移動をお願いいたします。

それではここからの議事進行を廣田委員長よろしくお願いいたします。

○委員長

それでは、次第に沿って進めさせていただきます。

次第6議事の(1)「基本方針を策定する目的、背景並びにスケジュールについて」事務局から説明をお願いします。

○事務局

資料3をご覧ください。

基本方針を策定する背景は急速な少子化に伴う児童生徒数の減少、施設の著しい老朽化などの課題を踏まえ、子ども達にとっての学校教育環境を充実させることを目的に、市立小中学校適正規模・適正配置について検討を行っていきます。

策定の流れは、詳細な将来推計、多面的な実態把握、施設・運営面での課題、アンケートについてはすでに調査を終えており、これらの現状を踏まえ、10年、20年後の変化や課題を明確にし、論点の設定を行い、適正規模・適正配置、求められる学習環境、これからの学校像について検討していきます。

検討委員会のスケジュールは本日の第1回をスタートし、第5回まで開催して7月に基本方針案を策定、9月に基本方針を策定します。

基本方針の内容は構成例に記載しています。

検討委員会の詳細なスケジュールは資料4をご確認下さい。

○委員長

ただいまの事務局からの説明につきまして、ご意見等ありますでしょうか。

○委員

<特になし>

○委員長

よろしいでしょうか。

よろしければ、本件については事務局からの提案通りとすることで、ご異議ございませんでしょうか。

○委員

<異議なし>

○委員長

それでは、議事(1)について提案通りといたします。

次に議事の(2)「学校を取り巻く現状と課題について」です。

事務局から説明をお願いします。

○事務局

資料5の内容を説明します

1ページは富士吉田市に設置されている小学校・中学校の基本的な情報、2ページは小学校と中学校の学区の状況です。

3ページは児童生徒数・学級数の将来推計を示しています。

4ページは中学校区ごとの変化を示しています。40年前頃は市の中心部である下吉田中学校区の児童生徒数が最も多かったのですが、現在では、下吉田中学校区と吉田中学校区はほぼ同数の規模になっています。

5ページと6ページは学校別に学級数の推移を示しています。20年前から既に小規模校が発生しており、現在ではその小規模校が6学級以下の複式学級一歩手前になっています。10年後になると、黄色や赤色の小規模校が拡大しており、20年後にはその状況が継続します。

7ページは特別支援教育の状況を示しています。特別支援の児童生徒数は10年間で1.7倍に増加しています。特別支援の内訳では、情緒障害者児童数が10年前の約1.9倍になっています。これは全国でも同様の傾向が見られます。

8ページは不登校児童生徒の状況です。小学生も中学生も新型コロナウイルス以降、増加傾向が見られます。学年別にみても小学校の増加率が高く、以前はほとんどなかった小学1～3年生もみられるようになりました。

9ページは不登校対応として教育研究所の対応を示しています。またその他の対応事例として、全国の学びの多様化学校の例を記載しています。

○委員長

ただいま事務局から説明がありました。「学校を取り巻く現状と課題について」説明がありました。

これからの検討にあたって気になることや、資料で示された視点のほかに、富士吉田市のこれからの学校を考える際にこれはおさえておいてほしい、といったご意見をいただきたいと思います。いかがでしょうか。

○清水委員

複式学級になる基準はありますか。

○事務局

自治体ごとに基準を持っていると思います。

○委員長

複式学級は2学年で16名以下が基準だと思います。

○勝俣委員

将来推計のクラスの設定はありますか。

○事務局

小学校は25人、中学校は35人で推計を行っています。

○品田委員

中心部の下吉田中学区が減少の大きい理由はありますか。

○事務局

富士吉田市は以前から、市街地が形成されているという特徴があり、下吉田地区が中心部として活性していましたが、市中心部の空洞化や、上吉田地区の開発などが影響していると思います。

○宮下委員

長期欠席者が直近の2年間で増加している理由はありますか。

○事務局

新型コロナウイルス後、人との距離感がはかりにくい子ども達が増えたことなどが考えられます。

○品田委員

不登校の子ども達の要因は、学校がそのような子ども達にとって魅力のないものになっているのではないのでしょうか。小規模校になると対人関係不足や役割が固定化されてしまい、チャレンジしなくなる子どもが増えているようです。そうならないためにはある程度の人数が必要で、交流が設定できる状態でないと魅力のある学校にならないと思います。

子ども達にとって魅力のある学校にするには、一定の規模が必要で、そのための適正規模・適正配置の議論は必要ですが、これからの学校像はそれだけでなく色々なことを考えていく必要があると思います。

○委員長

不登校の要因の一つに人間関係の固定化があるというご意見がありました。

実際に学校に携わっている方で、最低限必要な学級数や1学級当たりの人数と理想的な姿など、実感に伴ったご意見ありますでしょうか。

○伊藤委員

人数が少ない学校は人間関係の改善がなかなか難しいと思います。クラスの入替え等ができない中で、改善していくにはどのくらいの人数であればやりやすいか探

る必要があると思います。

不登校の生徒が増えていますが、やはり新型コロナウイルス時期の「学校にいかなくてもよい」という認識がその後にも影響があり、欠席のハードルが下がったと思います。このような状況を踏まえると、新しい価値観が学校には必要ではないかと思います。

当然、学校に来て欲しい訳ですから、そのための改善として規模の問題やシステム面の改善、それに取り組む教員の確保が必要になります。

本校は、サポートルームを開設していますが、それを運営するための体制が必要です。学校規模の検討も重要ですが、学校運営におけるシステム面や教員等の体制も検討する必要があると思います。

### ○三浦委員

本市の小中学校教育の特色として、Q Uを取り入れ、児童生徒の人間関係がどうかを図式化した中で、よりよい子ども達の人間関係づくりを科学的にアプローチしている歴史があることから、人間形成において本市は前向きに取り組んでいると思います。

また、小中の接続では、こういう中学生になりたいと思っている小学生が多く、そこから中学生になるので、中一ギャップの問題は少ないと思います。

小規模校に勤務した経験から、人数が少ないと児童生徒数の人間関係は固定化します。ただ、不登校の要因がそれだけだとすると、小規模校の方が不登校の人数が多くなるわけですが、不登校の比率が高い大規模校もあるので、一概にはいえないと思います。

では、どれくらい的人数が適正かという、ドッジボールなどのボールゲームができる程度的人数があれば、様々な役割がありながら、人間関係が育てやすいという説があります。

### ○三井委員

1学級的人数が10人と34人の学級を担当した経験から、小規模校はドッチボールをやるには厳しいですが、学力が伸びている傾向があります。

一方で、35人の学級は先生が生徒一人一人に向き合う時間が少なるので、その中間の20人から30人くらいが適正かと思います。

不登校問題は、その要因としてコミュニケーションの欠落と子どもの多様化が考えられます。例えば、学年に対応した授業よりも能力の高い児童は、授業が面白くなり、学校に来なくなるケースもあります。

そのためにも、学校間の不均衡をなくし適正化していくことが必要だと思います。現在の複合学区が機能していない箇所もあると思いますので、そのような学区を見直すことで、学校間の均衡を図っていくことも必要だと思います。

#### ○親田委員

富士見台中学校では、小学校から単級で進学してくるので人間関係が固定化し、役割も固定化する懸念があります。それが高校に進学する際の不安な部分ではありますが、そのまま進学することの安心感もあるようです。

人数が少ないため役割が一人に集中することもあります。みんなでいろいろな役割を担うように教育活動しています。

#### ○渡邊委員

不登校の出現率と学級数や一学級当たり人数と関連のある資料はありますか。

小規模校の下吉田第一小学校で自分の子ども達を通わせた実感ですが、小規模校こそこれからの教育に必要だと思います。下吉田第一小学校では、先生が生徒一人一人の長所をみつけてくれて、色々なリーダーに指名してくれています。運動会の時に必ず何か役割を与えられているので、席に座っている生徒がいません。中学校に入っても卒業生はみんなリーダーになっています。

下吉田第一小学校は小規模特認校でもあり、すばらしい学校だと思います。

これからの子ども達をどのように育てるか、社会でも個性が重要なのでその個性を伸ばすことが必要です。それができているのが下吉田第一小学校だと思います。

#### ○品田委員

人間関係の固定化は大規模校でも起きていますので、人数ではなく育て方が重要だと思います。ただ、小規模校で人間関係が固定化するとソーシャルスキルが身につけにくく、自己主張をしないといけない大規模の集団に入る時に、辛くなることもあるようです。小規模校のメリット、デメリットもありますので、大規模校でも育て方が重要だと思います。

2018年の日本財団の調査では仮面登校というデータがあります。これは、学校には登校していますが、気持ちは不登校という子ども達のことです。そのような子ども達は「学校は疲れる所」と思っているようです。学校の環境の中にそのような状況があることが不登校の一つの要因になっていると思われます。今回、育て方も含めて検討していく必要があると思います。

#### ○浅沼委員

スケジュールの検討委員会第2回の論点に「市の目指す教育の姿、これからの学校像」がありますが、これはすでに策定されていますか。

#### ○委員長

第2回の検討委員会で、本日の論点も盛り込みながら、これまで教育委員会で整理してきた「これからの学校像」を示していきます。

これまでの議論を整理しますと論点が3つあると思います。一つ目は、子ども達の対人関係やコミュニケーション能力が低下しているようで、コロナの影響もあり、学校に登校させるためにはこれまで以上に手をかける必要があります。人間関係の固定化を避けるために一定の人数が必要になるという意見がありましたが、必ずしも規模が大きければいいわけではなく、育て方の問題もあります。

二つ目はコストの問題で、今後、富士吉田市でどれくらいの学校を維持していくのが持続可能なのか検討する必要があります。

人間関係づくりにはクラス数が複数あったほうが良いという意見がありました。

コミュニケーション能力を高めるためのやり方として、自分の意見をまとめてお互いに発表する手法があります。4人1グループとすると、3グループ以上でないと議論が成立しないようです。そのためには1クラスが12人以上になり、それより少なくなると教育として成り立たないと言われていました。

小規模校は上手くいく場合と上手くいかない場合がありますが、上手くいかない場合は前の学校で作られた人間関係が壊れてしまい、学校コミュニティがうまく回らないことが見られます。このことから、地域との関係も必要となってきます。

今後の議論として、学習環境、生活集団としてどのくらいの人数がいいのか、それにコストの件も踏まえて議論を進めていきたいと思います。

10年後、20年後の学校の在り方や子ども像などの具体的な話をしていきます。

本日の議論も踏まえまして、次回、どういう学校にしていくのかという点を念頭に置いて、議論を進めていきます。

#### ○加々美委員

現在、急速な少子化、施設の老朽化の課題を抱えています。子ども達にとって望ましい学習環境を考えていきたいと思っていますので、一緒に考えていきたいと思っています。

#### ○委員長

どういう子どもを育てていくか。そのためになにをすべきかを議論していきたいと思っています。

#### ○井上委員

全ての子ども達が同じような教育を受けることができる環境が重要だと思います。富士吉田市に子ども達が戻ってくれる環境にしていただければ、富士吉田市の人口も増えると思います。

#### ○委員長

ありがとうございました。それでは議事(2)はこれで終了とします。

以上で、予定していた議事は終了しました。それでは、進行を事務局にお返し

たします。

○事務局

廣田委員長、ありがとうございました。

ここで事務局から2点事務連絡がございます。

まず、1点目として、検討委員会の会議録でございますが、会議録は事務局が作成したのち、委員の皆様にご確認いただいたうえで、市のホームページで公開させていただきたいと考えておりますがいかがでしょうか。

<了承の声>

その際、会議録の中で、発言された委員の皆様のお名前や委員名簿等含まれておりますので、公表させていただくこととなりますので、ご承知いただければと思います。よろしく願いいたします。

2点目ですが、次回会議の日程は2月18日を予定しておりましたが、再度ご調整させていただきます。後日、改めてご案内通知を送付させていただきます。また、当日の資料につきましても事前に送付させていただきますので、よろしく願いいたします。

なにか、他にご意見はありますか。

○山田委員

アンケートを実施していると思いますが、アンケート結果は開示されますか。

○事務局

次回の検討委員会で、アンケート結果の抜粋版を用意しますので、内容を共有させていただきます。

それでは、以上で、第1回富士吉田市立小中学校適正規模・適正配置検討委員会を終了いたします。長時間にわたりありがとうございました。